大　会　規　定

1. 1チームの登録選手は11名以上25名以内とする。
2. 出場選手はその大会の登録日の締切日現在連盟への登録済みの者に限る。
3. 審査証は平成30年度発行のものとする。
4. オーダー表記入選手20名以内及び登録された代表、監督、コーチ、マネージャーのみベンチに入ることが出来る。但し、各種登録証（チーム責任者証、監督、コーチ）および審査証（選手）を携帯していない場合は、いかなる場合でもベンチには入れないが、監督、コーチは、試合開始までに間にあった場合は、審査のうえベンチ入りできる。また、選手は試合終了までに間にあった場合は、審査のうえベンチ入りを認める。
5. チーム責任者はチーム責任者証を所持し、試合中は所定の服装でベンチに入ることとする。チーム責任者が不在の場合は試合ができない。
6. 組合せの若番号が1塁側のベンチ、後番号が3塁側のベンチに入る。但し、チーム責任者、監督、コーチは登録証を携帯すること。
7. 監督（背番号60）、コーチ（背番号50）は選手と同じユニホームを着用すること。
8. 試合開始時刻60分前に試合会場に到着し、直ちにオーダー表を5部大会本部に提出しなけれならない。
9. オーダー表交換時に両キャプテンにより、先攻、後攻をジャンケンで決める。
10. 試合開始予定時刻までにチームがグラウンドに現れないときには、球場責任者と責任審判員が協議して、没収試合を宣言することができる。
11. 試合方式など
    ＜中学生の部＞
    ①各試合は7回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から2時間を超えた場合は、新しいイニングに入らない。また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、野球規則4.11（d）により勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。
    試合成立前に上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとする。
    ②4回終了時10点差、5回以降7点差の場合、コールドゲームとする。
    ③7回終了後、同点の場合は延長戦に入るが、延長8回（決勝戦は10回）あるいは試合開始から2時間（決勝戦は2時間20分）を越えては（どちらか早い方）新しいイニングには入らずタイブレーク方式を実施する。（協議に関する特別規則「タイブレーク実施細則」参照）
    ＜小学生の部＞
    ①各試合は6回戦で行い、4回終了をもって正式試合とする。試合成立後は試合開始から1時間40分を超えた場合は、新しいイニングに入らない。また、降雨や視界不良などにより試合続行が不可能となった場合、野球規則4.11（d）により勝敗を決する。同点の場合は最終回時点で出場していたメンバー全員の抽選とする。
    試合成立前に上記の理由により試合続行が不可能になった場合は、サスペンデッドゲームとする。
    ②4回以降7点差の場合、コールドゲームとする。
    ③6回終了後、同点の場合は延長戦に入るが、延長7回（決勝戦は9回）あるいは試合開始から1時間40分（決勝戦は2時間）を越えては（どちらか早い方）新しいイニングには入らずタイブレーク方式を実施する。（協議に関する特別規則「タイブレーク実施細則」参照）
12. ①投手は同一日に小学生の部は6回、中学生の部は7回を超えて投球することができない。
    ②ダブルヘッダーでは、連投を認めるが、投球回数を小学生の部は6回、中学生の部は7回以内とし連続する2日間で10回以内とする。また、1日複数試合に登板した投手及び連続する2日間で合計5回を超えた投手（5回は可）は、翌日に投手または捕手として試合に出場することはできないものとする。
    ただし、イニングの端数（0/3回・1/3回・2/3回）は1イニングとみなす。
13. ①監督またはコーチの指示、伝達を1試合で攻撃2回と守備2回の計4回とする。延長またはタイブレークに入った場合は、それぞれ1回の指示、伝達を認める（選手の怪我や交代などの指示、伝達は回数に入らない）
    ②守備側の投手に対する指示、伝達が3回目となれば、自動的に投手は交代となり、その投手は他の守備位置についてもよいが、再び投手として当番するこはできない。
    ③内野手が2人以上投手のところに行った時も1回に数える。
    ④指示、伝達は審判がタイムを宣言してから「30秒以内」とする。
14. 1イニングで同一の投手に対して指示、伝達が2回目となれば、自動的に投手の交代となる。その投手は他の守備位置につくことができるが、同一イニングでは投手として登板することはできない。ただし、新しいイニングに入れば、再び投手として登板することができる。
15. 監督、コーチおよび選手は審判のジャッジに対して、絶対に服従し、抗議することを厳禁する。ただし、規則上の疑義申し出については、監督または問題の当事者のみが審判に説明を求めることができる。この場合は「3分以内」に規制する。
16. 監督またはコーチが投手に指示などをするときは、マウンドのとことで行うこと。（ベンチからは駆け足で）
17. 2塁走者やベースコーチなどが捕手のサインを盗んで、打者にコースや球種を伝える行為を禁止する。
18. ボール回しをする時は1回りとし、最終野手は、その定位置から返球する。また、打者が打撃を継続中、塁上で走者がアウトになった場合のボール回しは禁止する。
19. 投手は走者をアウトにする意志がないのに、無用のけん制球を繰り返すとか、または送球するまねを何度も繰り返す行為は、試合のスピーディーな進行の妨げになるため禁止する。
20. 小学生の部は、攻撃側チームの監督、コーチに限りコーチャ―スボックス内でベースコーチを務めてもよい。この場合、必ず両耳付きヘルメットを着用すること。
21. 各チームは同色のヘルメット7個以上、捕手の規定防具（マスク、捕手用ヘルメット、プロテクター、レガース、スロートガード、ファールカップ）2組を備えること。
22. ユニホーム、バット、ボール、スパイク、グラブ等は連盟指定業者のものとする。
23. 捕手は必ずヘルメットならびに規定防具を試合、練習を問わず着用すること。
24. グラウンドの都合で大会トーナメント規定が別に制定された場合は、それに従うこと。
25. ベンチ内での携帯電話の使用を禁止する。
26. 光化学スモッグ発生の場合、試合および選手に対する措置を別に定め、運営委員の指示に従う。
27. 試合前のシートノックは原則として5分間行うが、当該球場のグラウンド状況は試合終了時間を勘案して、シートノックを行うか否かは球場責任者が決定するものとする。

＜参　考＞
野球規則4.11（d）
4.12（a）によりサスペンデッドゲームにならない限り、コールドげーは、審判が打ち切りを命じた時に終了し、その勝敗はその際の両チームの総得点により決する。
【注】我が国では、正式試合となった後のある回の途中で審判がコールドゲームを宣したとき、次に該当する場合は、サスペンデッドゲームとしないで、両チームが完了した最終均等回の総得点でその試合の勝敗を決することとする。
（1）ビジティングチームがその回の表で得点して、ホームチームの得点と等しくなったが、表の攻撃がおわらないうち、または裏の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが得点しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。
（2）ビジティングチームがその回の表でリードを奪う得点を記録したが、表の攻撃が終わらないうちまたは裏の攻撃が始まらないうち、あるいは裏の攻撃が始まってもホームチームが同点またはリードを奪い返す得点を記録しないうちにコールドゲームが宣せられた場合。

＜タイブレーク実施細則＞
（1）特別規則
（イ）中学生の部は延長8回あるいは試合開始から2時間を超えて（いずれか早い方）、決勝戦は10回あるいは2時間20分を越えて（いずれか早い方）、小学生の部は延長7回あるいは1時間40分を越えて（いずれか早い方）、決勝戦は9回あるいは2時間を超えて（いずれか早い方）、両チームの得点が等しいとき、以降の会の攻撃は、一死満塁の状態から行うものとする。
（ロ）打者は、前回正規に打撃を完了した打者の次の打順の者とする。
（ハ）この場合の走者は、前項による打者の前の打順の者が一塁走者、一塁走者の前の打順の者が二塁走者、そして、二塁走者の前の打順の者が三塁走者となる。
（ニ）この場合の代打および代走は認められる。
（2）チームこよび個人記録
・チームおよび個人記録は公式記録とするが、以下に掲げる事項に留意すること。
（イ）投手記録
・規定により出塁した3走者は、投手の自責点とはしない。
・完全試合は認めない。
・無安打、無得点試合は認める。
（ロ）打撃成績
・規定により出塁した3走者の出塁きろいくはないものとする。ただし、盗塁、盗塁死、得点、残塁などは記録する。
・規定により出塁した3走者を絡めた打点、併殺打などは全て記録する。

＜運営細則＞
1. 試合前に、グラウンドに立ち入りできるのは、ベンチに入ることを許可された選手・チーム責任者・監督・コーチ・マネジャーのみとする。
2. 試合前のシートノックは、監督（60）、コーチ（50）に限る。
3. シートノック中はバッテリー1組を除き、選手は全員ベンチ内で待機すること。
4. シートノック時（サイドノックを行う場合を含む）、「捕手」「ボール渡し者」及び「その他危険なゾーン近くにいる選手」は、ヘルメットを着用すること。また、試合中においてもベンチ付近等、「危険なゾーンにいる選手」は、ヘルメットを着用すること。
5. 試合前のトスバッティングで、スタント方向に向かって打つことを厳禁する。
6. マスコットバット・バットウェイトリングの、ベンチ内持ち込みを禁止する。
7. 次試合の投手が、グラウンド内に入っての練習は禁止する。ゲームセットが宣告された時点で、直ちにグラウンドに入って準備する。グラウンド外に練習場所がある球場においては、球場責任者の指示に従うこと。